

コンフェデレーションズカップシンポジウム参加報告

01年7月22日

記録： キックラブ 泉田 和雄

Wカップのプレ大会、「コンフェデレーションズカップ」は、00年5月31日から6月10日まで、本番でも使用される「新潟・鹿島・横浜」の3会場で開催され、日本の準優勝で盛り上がりを見せた。その間国内の開催10都市では、同時に2002年に向けたボランティアの募集がスタート、応募数の少なさが話題となっていた。つまり、Wカップのプレ大会でありながらその運営にかかわる数多くのボランティアにとって、コンフェデレーションズカップは体験の場となることは無かった。

そこに危機感を感じ、コンフェデレーションズカップの会場となった、どのスタジアムにもこの体験を生かそうとする人々がいた。限りあるプレ大会から、課題を見出し全国の開催地と情報を共有化しようという目的をもって7月22日（日）「コンフェデレーションズカップ総括シンポジウム」が開催された。



横浜国際総合競技場

収容人員 72,000人

新横浜駅から徒歩15分

2002年Wカップでは6月30日の決勝戦のほか3ゲームが計画。

スタジアムにはスポーツ医学センター、スポーツコミュニティプラザのほか情報センター、市民のためのスポーツ施設が併設されている。

コンフェデレーションズカップ総括シンポジウム概要

開催日時 2001年7月22日（日） 13:00～16:30

会場 横浜市スポーツ医・科学センター大研修室

内容

主催 サロン2002

後援 A l l i a n c e 2 0 0 2 ・ N P O 日本サポーター協会

ソシオ・フリエスタ

「運営側からみたコンフェデレーションズカップの成果と課題」 長岡 茂(JAWOC茨城支部)

「ボランティアからみたコンフェデレーションズカップの成果と課題」 竹原典子（横浜会場ボランティア）

「市民団体からみたコンフェデレーションズカップの成果と課題」 小島 裕範(Alliance2002代表)

私達は、乗り換えを数回繰り返して1時間ほど遅れて新横浜に降り立った。蒸し暑い陽気、駅から国際総合競技場までのみちは、近代的で特に櫻の並木沿いに飲食施設のめだつビル群は、ゲーム勝利の後にはきっと余韻にひたるサポーターでいっぱいになるのだろう。ビル群を抜けると、広く開放的な公園、街灯にはWカップとF・マリノスのフラッグがゆるやかに揺れている。やがて見えてくる競技場はさすがに巨

大、現実的には7階建てという。横浜国際総合競技場の最大の特色はしかし、その巨大さばかりではない。市の医・科学センターや一般市民の利用できるスポーツ施設が併設されており、当日も夏休み中ということで多くの子ども連れの姿があった。使用目的が限定されることが普通のスタジアムの中で、ゲームの無い日の活用も考えた姿勢は評価されるべきだし、宮城スタジアムや仙台スタジアムでも真剣に考えるべきだと思う。



シンポジウムの様子
参加者はそれぞれテーマをもって出席している。

← 後半ディスカッションの様子

左から2人目 長岡氏

3人目 竹原氏、右 小島氏



← 全体では100名弱の出席者
参加者は意外に若い、Wカップに向けて新しい流れが生まれている。



シンポジウムは既にはじまっていて、私達はうしろに椅子を追加して座った。折りしも2番目の講師となった竹原さんが、3ヶ所に設置されたスクリーンを使って、コンフェデレーションズカップに参加したボランティアから見た問題点をその解決の方向性もまじえて話しており、続いて新潟でコンフェデレーションズカップ期間にサポーターとして、ボランティアとして、そして企画の実施者として関わったAlliance2002の小島さんからそれぞれの視点からの課題の説明、今回のボランティアについては事前に4回の研修があり、しかも、平日の夜間も含めて開催される3ゲームすべてに参加することが採用の条件であったこと、現状の日本の仕事の体系を考えた場合、サラリーマンにとっては極めてかかわりにくい募集要項ではないだろうかと指摘。

その後、休憩をはさんで、講師に対する質問時間、Wカップ時の日本代表戦でのサポーターの応援に対するもの、ボランティアの研修及びマニュアル作成へのボランティア代表の参加、ボランティア休暇の促

進やボランティアへの権限の委譲について、質問は多岐にわたり予定した時間を超えてなお続いた。

最後にまち全体にかかる取り組みとして、バーチャルスタジアム構想に取り組んでいる日本ピクターの木村さん、ファンビリレッジ構想を提案している日本センター協会の浅野さん、S A N P O ツアーという海外センターを対象とした散歩ツアーを企画している L O V E J A P A N の片岡さんの紹介、W カップという期限のあるイベントが対象である以上、具体的な取り組みが動き始めていることを実感した。シンポジウムが終わり、竹原さん・小島さんをはじめ参加者の方々と、今後の活動の協力について挨拶。



コンフェデ活動アンケート概要（横浜国際ボランティア対象）

業務の指示系統は？（良かった 48%・不足した 34%・わからない 18%）

お客様・メディア対応は？（良く出来た 39%・なんとか出来た 56%・出来なかった 5%）

あなたの語学力は？（役にたった 13%・もっと勉強する 27%・使わなかった 60%）

競技場の施設の把握は？（良く出来た 62%・良くわからない 23%・迷った 15%）

今回の活動は？（気持ちよく出来た 48%・疲れた 42%・良くできなかつた 10%）

業務マニュアルは？（役にたった 50%・役に立たなかつた 32%・わからない 18%）

横浜国際総合競技場には、スタジアムボランティアというシステムがある。スタジアム付きのボランティアは、マリノスのサッカーはもちろん、他の競技のボランティアも担当し、自分達で季刊のニュースペーサーを発行し、時にはスタジアムの案内を行なう。シンポジウムから駅への道すがら、他の競技場のJリーグのボランティアとして複数の登録をし、活動している人々の話を聞いて、新しいスポーツ・ボランティアの方向性を見る気がした。